

焼津市都市計画マスタープラン（案）に対する  
市民意見（パブリックコメント）の募集結果について

1 意見募集期間

平成 28 年 2 月 26 日（金）から 3 月 11 日（金）まで

2 提出意見数

4 件（ 1 人 ）

3 意見の反映状況

区分	件数
案の修正を行うもの	1
案の修正を行わないもの	3
合計	4

4 意見の内容

別紙「焼津市都市計画マスタープラン（案）に係るパブリックコメントの意見と市の考え方」のとおり

## 焼津市都市計画マスタープラン(案)に係るパブリックコメントの意見と市の考え方

### ■案の修正を行うもの

番号	意見の要旨	考え方・対応	備考
1	<p>以下の用語を追加していただきたくお願いいたします。私のような素人にはこのような用語解説があると大変助かります。用語解説を用意しているのでこのマスタープランへの担当部署の意気込みを感じました。</p> <p>「協働」・・・私の回りではこの用語を知らない人がほとんどです。私もまだ理解できないでいます。簡単に言うとなんなのでしょう。</p> <p>「市民」と「住民」・・・両方の言葉ができます。違いを明確にお願いしたい。「協働」には「住民」が出てくるのでしょうか。「市民」だけですかね。</p> <p>「都市計画」と「まちづくり」・・・本件表題は「焼津市都市計画」だが、私の住んでいる地域になると「大井川西地区まちづくり構想」となる。第3章では「まちづくりの実現に向けて」。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、案を一部修正します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「協働」について、用語集に追記することとします。(P131)</li> <li>・「市民」と「住民」の使い分けについて、「市民」は、市内居住者全般を指す場合に使用し、「住民」は、一定の地域の居住者を想定する場合に使用しています。(P89)併せて、一部修正します。</li> <li>・「都市計画」と「まちづくり」について、序章 計画策定 1 都市計画マスタープランとは (2) 都市計画マスタープランの役割に注釈を追記することとします。(P1)</li> </ul>	—

### ■案の修正を行わないもの

番号	意見の要旨	考え方・対応	備考
1	<p>「過度に自動車に依存しなくても・・・」について「歩行者、自転車を最優先し、自動車に依存しない生活ができるまちづくりをすすめます。」とするのが適切だとおもいました。</p> <p>理由は、 「焼津市の強みである「駿河湾、大井川、高草山など自然に恵まれている」、同規模の藤枝市と違い「坂道が少ない平坦な地形」から温暖化防止、自然保護を更に強く県内外にアピール出来る点が歩行者と自転車優先都市計画です。オランダをはじめとした欧州の道路都市計画を見習いつつ焼津市方式まちづくりを構築する今がチャンスです。海の幸を20年後も維持するためにも温暖化防止には焼津市がトプランナーになりたいところです。</p>	<p>交通ネットワークにおいて、自動車交通が日常に欠かせない移動手段になっているため、「過度に自動車に依存しなくても生活できるまちづくり」という表現の方が適切だと考えました。また、安全・安心で快適に通行できる自転車・歩行者空間づくりを進めるために、今後の参考とさせていただきます。</p>	P7

番号	意見の要旨	考え方・対応	備考
2	<p>「矢印が拠点に向っていないのが極めて不適切」です。通り過ぎてしまう連携軸の図示を「矢の先が拠点になるように修正」すること。</p> <p>理由は 拠点はある意味「センター(中心)」です。そこへ市民住民が集まるところです。あるいは市外県外海外から人々に集まって欲しいところです。その集まって欲しい拠点到矢印が向いていないのは全く理解しかねます。市外に向っての矢印もやめるべきです。現状は住民がそとへそとへと流れてはいます。確かに人口も減少しています。しかし、この都市計画マスタープランの「地域別まちづくり構想」を作成する中では「住みやすいまち＝人口増加へ」と住民地域から主体的に見て「out」ではなく「in」の方向のための意見が多く出ました。少なくとも私はそう理解しました。 「連携軸はどこどこが連携するのか」が構造図として見えないと連携の意味をなさない。住民と拠点の連携。市外県外と海外との連携。現時の図では拠点へ矢印が明確に向っていない。通り過ぎてしまう連携軸の図示を「矢の先が拠点になるように修正」することで明示できると思います。 ちなみに82ページ「大井川西地区 まちづくり方針図」では拠点間を矢印で結ぶように図示しています。</p>	<p>第1章 全体構想 3 将来のまちの姿(将来都市構造) 将来都市構造図においては、将来のまちの骨格をなす配置・連携(エリア・拠点・軸)の考え方を定めており、連携軸は拠点到市民が集まることを踏まえて示しているもので、いただいたご意見の趣旨はこの図に含まれていると考えます。また、両側矢印について、広域的な人・物・情報等の交流を図で表わしたものです。</p>	P11
3	<p>第3章 4の「・・・進行管理、見直し・・・」について 「市長」が進行管理と見直しの責任者と明記するべきです。</p> <p>理由 文書から誰が責任を持つかがわからない。文書には「市は・・・」とあるが「市」という人はいませんよね。文書からだれが見直しや進行遅れなどを判断するか未記載です。部下に実務を指示するにしてもこの大切な計画の責任者は「市長」とするのが適切かつ「担当者＝人」を明示することは必須だと考えます。部長では時代に適応するためにその部署名も変わっていくので不適當です。市長しかいらっしやらないと思います。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、市で進める業務の責任者は市長となります。また、ご意見のあった箇所については、誰が責任者として進行管理や見直しを行っていくということではなく、進行管理や見直しについて市としてどのような考え方でやっていくかを示している箇所であることから、“本市では”という表現の方が適當と考えました。</p>	P94